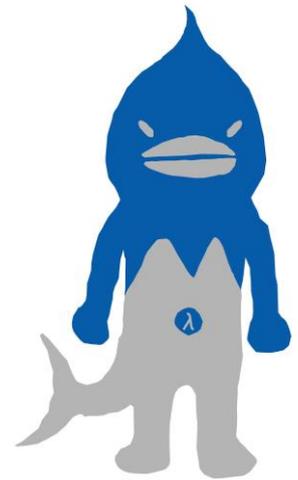


Ⅱ 活動事例

津軽海峡交流圏形成に向けた、 活動の数々。

津軽海峡交流圏の形成に向けた
λ（ラムダ）プロジェクトに関する
活動事例を紹介します。



文中の【提案番号】欄には、関連があると考えられる過去の提案番号を記載しています。

■活動事例 目次

番号	タイトル	ページ
■津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員		
1	津軽海峡マグロ女子会による活動	59
2	アルプスおとめによる津軽海峡交流圏PR活動	61
3	「津軽森林鉄道」と「ヘルスツーリズムプログラム」を活用したビジネスの推進	62
4	津軽海峡エリアにおける流動促進プロジェクト	64
5	農泊の魅力づくり	65
6	津軽海峡でつながる文化・芸能交流（北海道江差町、青森県五所川原市、青森県佐井村）	66
7	λ（ラムダ）プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」を活用した情報発信	67
8	江差町でのバル街開催	69
9	マグ女の妹分「はづのへ サバ嬢」デビュー	70
■企業・団体等		
	企業・団体等	71～75
■行政		
	国	76
	県	77
	市町村	84

■津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員

1 津軽海峡マグロ女子会による活動

(阪口あき子委員、島康子委員、高木まゆみ委員、三津谷あゆみ委員、室谷元男委員)

【(1)圏域内の交流・連携 8、36】

○New!! マグ女に続く女性たちの町おこし団体の誕生

(1) 時期 平成 29 年度

(2) 場所 山口県下関市、北海道後志地域

(3) 内容 マグ女の活動に触発された女性たちが各地で女子会を誕生させ、地元の活性化のために動き出している。関門海峡には「フク女」が、北海道後志(しりべし)には「しり女」が誕生。マグ女のまちおこしの熱い思いが、全国に飛び火している。



マグ女が下関市の「Minato de Conference」に参加



「フク女」と「マグ女」のご当地対決

○New!! 「第9回観光庁長官表彰」及び「女性のチャレンジ賞」の受賞

(1) 時期 平成 29 年 10 月 2 日、平成 30 年 6 月 27 日

(2) 内容 津軽海峡マグロ女子会は、「マグ女のセイカン博覧会」による独自の観光ツアーの実施や駅弁開発の監修による地元の食の魅力発信など、各種イベントや商品開発等を通じ、人をつなぎ地域の元気づくりの牽引役として青森県と北海道を盛り上げている。津軽海峡交流圏に新たな賑わいと豊かさを造りだしてきたこれまでの取組が評価され、観光庁からは「第9回観光庁長官表彰」が、内閣府からは「女性のチャレンジ賞」が授与された。



「観光庁長官表彰」受賞式にて記念撮影



「女性のチャレンジ賞」表彰式にて安倍首相と

○**New!!** 東奥日報の夕刊に地域活性化エッセーを定期掲載

- (1) 時期 平成 30 年 4 月 14 日から毎週土曜日
- (2) 内容 マグ女メンバーが交代で「津軽海峡マグ女激情」というコーナーにエッセーを掲載中。メンバーになったきっかけ、それぞれの地域で取り組んでいること、マグ女の活動内容など、津軽海峡を挟んだ青森県と道南地域の最新の魅力を発信している。

○**New!!** 観光庁の「観光地域づくり事例集」でマグロ女子会の取組が紹介

- (1) 時期 平成 30 年 6 月 5 日
- (2) 内容 観光庁が、観光による地方創生や地域の活性化の一層の推進のため作成した「観光地域づくり事例集～グッドプラクティス 2018～」に、プロモーションによる地域の認知度向上及び来訪者獲得に取り組む事例として「マグ女のセイカン博覧会」が紹介された。

○ 第 3 回目「マグ女のセイカン博覧会」を開催

- (1) 時期 平成 30 年 9 月 15 日～平成 30 年 11 月 30 日
- (2) 場所 青森県と北海道道南地域
- (3) 内容 津軽海峡を挟んだ青森県と北海道道南地域の地元愛溢れる女性たちで構成された津軽海峡マグロ女子会が、平成 28 年度から開始し、今年度で第 3 回目となる「マグ女のセイカン博覧会」を開催中。地元を誰よりも愛しているマグ女ならではの、津軽、道南、下北の各地域のディープで魅力的なヒト、モノに出会うツアーは、青森県と北海道道南地域の魅力を堪能することができる 27 プログラム。



2 アルプスおとめによる津軽海峡交流圏PR活動

(樋川由佳子委員)

【(1)圏域内の交流・連携 10】

○**New!!** はこだてクリスマスファンタジーでの津軽海峡交流圏PRステージ

(1) 時期 平成 29 年 12 月 22 日

(2) 場所 函館市「金森赤レンガ倉庫前」

(3) 内容 函館市金森赤レンガ倉庫前で、津軽海峡交流圏クイズ、アルプスおとめライブのほか、北海道江差町出身の KAZUMI さんとのよさこいソーランコラボステージなどを実施し、津軽海峡交流圏をPRした。



○ 弘前バル街での津軽海峡交流圏PRステージ

(1) 時期 平成 30 年 2 月 3 日、平成 30 年 7 月 14 日

(2) 場所 弘前市「土手町コミュニティパーク」

(3) 内容 弘前バル街の会場にて、津軽海峡交流圏クイズ、アルプスおとめライブなどを実施し、津軽海峡交流圏をPRした。

平成 29 年度は江差出身の KAZUMI さんと、平成 30 年度は「マギユロウ」と一緒にステージを盛り上げた。



3 「津軽森林鉄道」と「ヘルスツーリズムプログラム」を活用したビジネスの推進

(伊藤一弘委員、木谷敏雄委員、島康子委員)

【(1)圏域内の交流・連携 13・27・28、(3)体制づくり 6、(4)その他 2・6・16】

○New!! 我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催

(1) 時期 平成30年8月24日

(2) 場所 五所川原市「津軽三味線会館」

(3) 内容 NPO法人かなぎ元気倶楽部では、東北初となる「林業遺産」選定を機に、青森県の産業近代化に貢献した津軽森林鉄道の記憶を再認識し、津軽半島地域におけるエコツーリズムによる受入を推進により、交流人口や関係人口の増加を目指し、地域の活性化を図ることを目的とした取組を進めている。

五所川原市金木町は、藩政時代から津軽半島における最大の青森ヒバ集積地であり、日本初の森林鉄道である津軽森林鉄道本線の起点・終点であった。こうした歴史的経緯を学ぶために、「林業遺産」選定に貢献した方々をメインゲストに迎え、記念シンポジウムを実施した。

我が国初の森林鉄道
「津軽森林鉄道」
遺構群及び関係資料群

The Japan Forest Society
日本森林学会
林業遺産

2017年度「林業遺産」選定記念
公開シンポジウム

平成30年8月24日(金)

場所：五所川原市金木町津軽三味線会館 多目的ホール
16時00分～18時30分 入場無料

林業遺産「津軽森林鉄道」プロローグ 映像で見る懐かしの光景

1. 基調講演(16:20～17:20)
小島孝文氏、「国有林野事業における森林鉄道の歴史的意義」
東北森林管理局長
矢部三雄氏、「我が国初の森林鉄道が津軽に建設された背景を探る」
富士大学客員教授 博士(農学) ちと東北森林管理局長

2. パネルディスカッション(17:30～18:30)
「林業遺産」を地域振興にどう活かすか

主催 NPO法人かなぎ元気倶楽部
五所川原市金木町朝日山189-3 津軽三味線会館内
お問合せ先 0173-54-1616
E-Mail okutsugaru-trail@kanagi-gc.net



4 津軽海峡エリアにおける流動促進プロジェクト

(高橋俊介委員)

【(1)圏域外との交流・連携 2・8】

○ 津軽海峡エリアにおける地域の観光流動化促進事業の推進

(1) 時期 平成30年4月～

(2) 内容

①津軽海峡圏を周遊する旅行商品の造成

「定番ツアー」として継続実施することを目指し、青森の四季それぞれの「おいしい」ところを気軽に巡る旅行プランを企画し、旅行代理店を通じ、函館市民向けに販売。

○100周年を迎える日本三大桜名所 日帰りで行く「弘前さくら祭」満喫ツアー

- ・平成30年4月21日、平成30年4月22日実施
- ・往路新幹線、復路津軽海峡フェリーを利用する日帰りツアー
- ・桜栈敷の弁当プランをオプション提案

○2018クラフトフェアと青森の「おいしいもの」をめぐる旅

- ・平成30年5月26日実施
- ・関係者による視察

○五所川原市立佞武多祭「曳き手」参加ツアー

- ・平成30年8月4日～平成30年8月5日
- ・曳き手として立佞武多祭に参加する0泊2日のツアー

②台湾訪日旅行に関する企画

台湾サイクリスト向けの津軽海峡周遊型サイクリングツアー商品を企画・造成。立佞武多祭参加を目玉とした「夏の定番商品」として催行した。

○サイクリング旅行商品

- ・平成30年8月7日～平成30年8月12日 函館IN/OUT
- ・五所川原立佞武多祭に曳き手として参加することを目玉としたサイクリング旅行
- ・津軽半島、西海岸、八甲田～奥入瀬・十和田湖、下北を巡る6日間

○海外個人旅行者向け青森周遊型レンタカーパック旅行商品

5 民泊の魅力づくり

(伊藤一弘委員)

【(3) 体制づくり 6・8、(4) その他 30】

○New!! 金木町農泊推進プロジェクトの実施

- (1) 時期 平成 30 年 4 月～
- (2) 場所 五所川原市金木町
- (3) 内容 津軽海峡交流圏の地域経済活性化を図るための各種事業を推進している NPO 法人かなぎ元気倶楽部が、かなぎ元気村「かだるべえ」をビジネスモデルに農泊推進プロジェクトを実施。

新たな宿泊形態を確立するために、連携する大学の留学生モニター宿泊体験を行いながら、地域資源の活用した体験メニューやコース、奥津軽あずまし食堂メニューの開発等、地域とボランティアを取り込んだ農泊の魅力づくりに取り組んでいる。



「金木町」でむかし暮らし体験

5, かなぎ元気村「かだるべえ」で農泊体験。1泊2日の体験プログラム「むかし暮らし体験」を開催。お宿の歴史・文化・生活体験が盛り込まれています。お宿の歴史・文化・生活体験が盛り込まれています。お宿の歴史・文化・生活体験が盛り込まれています。

グランピングサイトで農泊

いながき暮らしをより楽しんでもらうために、かなぎ元気村の敷地にグランピングサイトを開設しています。広大な敷地を開放し、自然・風景を満喫しながら、お宿の歴史・文化・生活体験が盛り込まれています。お宿の歴史・文化・生活体験が盛り込まれています。

1泊2日ツアー 夏のモデルコース紹介

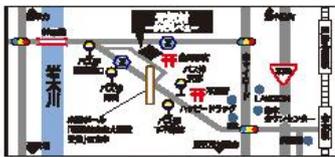
津軽海峡交流圏トトレイルと、奥津軽あずまし食堂、お宿、りんご作り体験

<1 日目>	<2 日目>
12:00 高津橋トトレイル (津軽十二ヶ所大津波遺跡めぐり)	9:30～ りんご摘み体験
13:15 十二ヶ所大津波遺跡めぐり (津波資料館)	10:00 朝食
14:15 津軽(リンチカー)体験	11:00 石巻七夕づくり(昼食)
15:00 新築地見学	12:00 かなぎ元気村「かだるべえ」ツアー
15:30 津軽(リンチカー)体験	フリータイム
16:00 津軽(リンチカー)体験	終了
16:30 津軽(リンチカー)体験	

1泊2日ツアー 夏のモデルコース紹介

津軽海峡交流圏トトレイルと、奥津軽あずまし食堂、お宿、りんご作り体験

<1 日目>	<2 日目>
12:00 高津橋トトレイル (津軽十二ヶ所大津波遺跡めぐり)	9:30～ 津軽(リンチカー)体験
13:15 十二ヶ所大津波遺跡めぐり (津波資料館)	10:00 朝食
14:15 津軽(リンチカー)体験	11:00 石巻七夕づくり(昼食)
15:00 新築地見学	12:00 かなぎ元気村「かだるべえ」ツアー
15:30 津軽(リンチカー)体験	フリータイム
16:00 津軽(リンチカー)体験	終了
16:30 津軽(リンチカー)体験	



NPO 法人 かなぎ元気倶楽部
かなぎ元気村「かだるべえ」・茶房「湯家」
青森県五所川原市金木町西元 47
TEL (0173)52-2882 FAX (0173)52-2882
<http://www.kanagi-gc.net/>



青森金木町のむかし暮らし体験
An old life experience of Aomori Kanagi

NPO 法人 かなぎ元気倶楽部
かなぎ元気村「かだるべえ」・茶房「湯家」
<http://www.kanagi-gc.net/>

6 津軽海峡でつながる文化・芸能交流（北海道江差町、青森県五所川原市、青森県佐井村）
 （伊藤一弘委員、高木まゆみ委員、室谷元男委員）
 【(3)体制づくり 10】

○**New!!** 「津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を江差で初開催

- (1) 時期 平成 29 年 10 月 14 日
- (2) 場所 北海道江差町「江差追分会館」
- (3) 内容 江差いにしえ研究会が、江差追分会館で、「津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を開催した。佐井村からは福浦芸能保存会が出演し、3 演目を披露。また、五所川原市金木町発祥の津軽三味線と津軽民謡のほか、江差追分が江差追分踊りとともに披露され、会場は大いに盛り上がった。これまでの交流が一つの形になった瞬間であり、江差町内外からの約 350 人の観客で賑わった。

青函・道内郷土芸能交流事業 津軽・下北の芸能が江差で観れる！
 ～津軽海峡交流圏 郷土芸能祭～

江差町初公演
福浦の歌舞伎

1日限りの歌舞伎役者募集！
 衣装をまとい演じてみませんか！
 申込・問い合わせは、下記まで
 10月6日締切です！

下北半島 佐井村で年に一度しか観れない、漁村歌舞伎が観れて、津軽民謡・津軽三味線が聴ける特別で贅沢な一夜です！

入場無料

10/14(土)
 場所/江差追分会館
 17時30分 開場
 18時00分 開演
 20時00分 終了予定

共催：江差町・北海道輸山振興局
 後援：江差追分会・佐井村一般社団法人ぐるる佐井村・Sai ツーリズム振興推進プロジェクト協議会・五所川原市教育委員会
 特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部・津軽三味線会館いしえ資源研究会・早月蔵チャミセ
 問合せ/江差追分会館 TEL:52-5555

この事業はサマージャンボくしの収益金を活用して実施しています

演目(出演者)
 1 福浦の歌舞伎「三番叟」福浦芸能保存会
 2 福浦の歌舞伎「忠臣蔵三段目」
 3 津軽民謡 小山内忠勝(第22代青森県民謡王座)
 津軽三味線 長峰健一(第3回津軽三味線全国大会優勝者)
 4 福浦の歌舞伎「義経千本桜」
 5 江差追分 寺島絵里佳(第41回江差追分全国大会優勝者)
 総合司会 横山ひでき(青森県のローカルテレビ・黒石八郎の弟子)



○New!! 「第2回津軽海峡交流圏郷土芸能祭」の開催

- (1) 時期 平成30年10月6日
- (2) 場所 五所川原市金木町「津軽三味線会館」
- (3) 内容 青森県五所川原市金木町にて、佐井村福浦の漁村歌舞伎、江差町の江差追分、金木の津軽三味線と津軽民謡、津軽海峡圏を代表する郷土芸能を一同に集めて実施する「第2回津軽海峡交流圏郷土芸能祭」が開催された。三つの特長ある郷土芸能は、それぞれが郷土の誇りである。まずは津軽海峡圏に住む我々が同じ圏域に住む人々を理解し、それぞれの風土で培われた郷土芸能を認め合うことから始め、津軽海峡交流圏の魅力の柱となることを目指している。



7 λ（ラムダ）プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」を活用した情報発信
（尾崎伸行委員）

【(4)その他 9】

λ（ラムダ）プロジェクトを進め、盛り上げていくため、平成26年度にλ（ラムダ）プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」を誕生させ（デザイン）、その後もさまざまな情報発信を実施（PRグッズの製作やイベント等でのPR活動など）。

○**New!!** 県立浪岡高等学校の空き缶壁画に「マギユロウ」登場

- (1) 時期 平成30年9月6日
- (2) 場所 青森県立浪岡高等学校
- (3) 内容 平成30年度の「マギユロウ」を活用した情報発信の目玉は、浪岡高校の代名詞となっている「空き缶壁画」への「マギユロウ」のデザイン使用。

壁画のテーマは、「マギユロウがつなぐ青森県と北海道」。生徒たちがデザインから製作までを行い、青森県と北海道をつなぐために奔走する「マギユロウ」のように、これからも空き缶壁画を通し、地域の皆さんと浪岡高校がつながり、リサイクル事業を続けていきたいという思いが込められている。完成披露会にサプライズで「マギユロウ」が登場すると、浪岡高校生の歓声に迎えられ、記念撮影に参加した。



（参考）「マギユロウ」の活動回数（平成29年9月～平成30年9月）

- 圏域内 47回（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、むつ市、つがる市、平川市、今別町、外ヶ浜町、北海道函館市）
- 圏域外 14回（北海道札幌市、東京都千代田区・豊島区・八王子市・町田市、神奈川県横浜市・平塚市、石川県金沢市、愛知県名古屋市・豊山町、福岡県福岡市）

9 マグ女の妹分「はづのへ サバ嬢」デビュー (木村聡委員)

○New!! 平成30年度「第3回青函広域観光おもてなし人材育成研修会」にて、「はづのへ サバ嬢」のお披露目

- (1) 時期 平成30年7月14日
- (2) 場所 八戸商工会議所
- (3) 内容 研修会では、弘前市長、八戸市長、「ことりっぷ」担当者、台湾のジーリーメディアグループ社長等の講演を実施したほか、現地視察などで青函の観光関係者の交流を図った。

また、アトラクションでは「マギユロウ」が登場した他、「マグ女」とマグ女の妹分として、「はづのへ サバ嬢」をデビューさせて、今後の連携による情報発信力の強化を図った。

「はづのへ サバ嬢」は、県南地域の女性たちが、県南地域の「人の魅力と暮らしぶり」を学び、発信し、地域の「ブランド化」を進めていくためのPR隊として集結したもの。とにかく楽しむことが大好きで、八戸が誇るサバと同様、活きとあぶらノリの良さがウリ。八戸、三戸、五戸、南部、階上、田子、おいらせ、三沢の女性20名がエントリー。今後、仲間を増やして生息地の拡大も見込む。八戸前沖サバだけではなく、お互いの地域が大切に育んできた生活や文化を理解し合い、そこで感じた魅力、良いところを紹介し合っていく。

公社団法人日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

【平成30年度全国広域観光振興事業】

平成30年度
第3回 青函広域観光おもてなし人材育成研修会
(八戸開催)

新幹線の新青森～新函館北沢間が開業。これにより北東北以北、とりわけ青森地域と北海道がひとつの広域観光圏を形成するものとなり、観光客の流動も大層な変化を遂げています。この新たな広域観光圏の取り組みとして、国内旅行客・訪日外国人観光客の導入体制の整備を急務と捉えることが重要となり、相互の地域間の連携や今後の更なる様々な情報発信を共有・活用できるおもてなしの汎用性と観光拡大に活用できる研修会を企画いたします。

主催 (公社)日本観光振興協会東北支部・北海道支部、(公社)八戸観光コンベンション協会
八戸広域観光振興委員会
協賛 北海道、八戸市、弘前市、青森市、胆振市、(公社)青森観光コンベンション協会
協賛(予定) (公社)弘前観光コンベンション協会、(一社)岩手県観光コンベンション協会
八戸観光振興委員会

日時 平成30年7月14日(土) 13:30～16:50 (受付 13時～)

会場 八戸商工会館 4階大会議室
〒031-8511 青森県八戸市塩間町2-3 TEL.0178-43-5111 定員 100名

【講演会】

13:30	開会	
13:30～13:35	主催者挨拶	(公社)日本観光振興協会
13:35～13:50	来賓ご挨拶	八戸市長 小林 眞 様
13:50～14:10	新幹線紹介	「八戸の発展が世界を驚かす！」 ～DMOが掲げる世界のトピ・ラリー～ 講師：八戸市長 小林 眞 様
14:10～14:50	講演	「観光」と「2020年の観光のスタイル」 ～これまでの10年、これからの10年～ 講師：弘前市長 櫻田 宏 様
15:00～15:30	7ヶ所9ヶ所 マグ女の妹分「はづのへ小戸サバ嬢」誕生秘話 party	イカ・ムシ・海苔・魚卵・イカワタで楽しむサバの魅力を サバユウの魅力を学ぶ！
15:30～16:10	講演	「ことりっぷ」自慢で育む、県産も丹精たくなる地域 講師：株式会社紀文社 出版推進課 渡辺 孝 様
16:10～16:50	講演	「台湾・首屈一指の観光地」1日体験の感動と魅力 講師：株式会社ジーリーメディアグループ 代表取締役社長 吉田 純一 様
16:50	閉会	

【エクスカーション】 参加希望者のみ
7月14日(土) 八戸駅あるき体験(参加費無料)1700～1830頃まで
八戸七ヶ所マツマツコウ内観光客→八戸三沢大森山道の遊覧
7月15日(日) 産養学館都市散策(参加費1,500円 600～830頃まで)
中心部から徒歩5分産養学館散策→いさばろ/中心部(昼食：別途100円)
※八戸さんぽマイスターがご案内いたします。



■企業・団体等

○ 青森商工会議所・函館商工会議所による「パートナーシップ構築懇談会」開催 (平成 24 年度～) 【(1)圏域内の交流・連携 24】

両商工会議所による「商品拡大」「販路拡大」「技術提携・連携」等の経済連携促進を目的として、青函パートナーシップによる事業提案を募集し、両地域の関心のある事業所に対してプレゼンテーション及び商談の場を提供するビジネスマッチング事業を実施している。これまで 15 件の青函関連商品が生まれている。平成 30 年 2 月 27 日、第 8 回懇談会が開催され、青函の 54 社が参加した。

○ 青森銀行、北洋銀行の官民連携ファンド「青函活性化ファンド」による投資 (平成 26 年 5 月～)

異なる地域の金融機関が連携する官民連携活性化ファンドは、全国でも初の試み。また、第 1 号案件として函館の老舗五島軒への投資が決まっており、七飯町産・青森産のりんごを使ったロールケーキ「函館ロール」増産のための設備投資等に充当。その後、株式会社吉田屋（八戸市の弁当製造販売業）、株式会社フォルテ（青森市の通信端末・システム開発販売業）が投資を受け、平成 30 年 3 月 12 日、第 4 号の投資先として、イマジン函館株式会社（函館市で「リゾート函館」を運営）への投資が決定した。。

○ 青森県と道南の将棋愛好会による北海道新幹線開業記念将棋大会の開催 (平成 28 年度～) 【(1)圏域内の交流・連携 39】

北海道新幹線の奥津軽いまべつ駅が開業した今別町で、初めて、日本将棋連盟青森支部と函館中央支部の交流として記念大会を開催。その後も、毎年 1 回、本県と道南で相互に開催している。第 3 回目は、平成 30 年 7 月 29 日に、青森市「青森県県観光物産館アスパム」で開催した。

○ 公益財団法人 21 あおもり産業走行支援センターによる「青函地域受発注拡大商談会 in 青森」の開催（平成 28 年度～）

青森県及び北海道のものづくり企業と全国の発注企業が一堂に会し、個別面談により、商談や情報交換等を通じて新規取引先の開拓や企業連携を促進するために実施している。平成 29 年度は、11 月 7 日に、受注企業 37 社及び発注企業 29 社が参加した。

○ **New!!** みちのく銀行の道南での中核「函館営業部」が新装オープン（平成 29 年度）

函館エリアでの中小企業・個人向けの貸し出しを強化するため、老朽化していた旧店舗の隣に新店舗をオープンさせ、営業を開始した。

- New!!** 「青森県・函館デスティネーションキャンペーン効果の持続のため、「青森県・函館観光キャンペーン」を実施（青森県・函館観光キャンペーン推進委員会）
（平成 29 年度）

青森県及び北海道道南地域への更なる誘客促進と青函周遊観光の定着化を図るため、アフターDCとして観光キャンペーンを実施。

- New!!** 青森公立大学生が津軽海峡フェリー利用者対象に函館・下北観光アンケートを実施（平成 29 年度）【(1)圏域内の交流・連携 32】

津軽海峡圏での観光振興の可能性を探るため、青森公立大学の観光メディア研究室 2 年生が、函館・大間両フェリーターミナルやフェリー「大函丸」の中で、津軽海峡フェリー利用者対象にアンケートを実施。

- New!!** 道の駅「みそぎの郷きこない」において青森県特産品の販売強化（平成 29 年度）

これまでは祭りやイベントとタイアップした青森県産りんごやリンゴジュースを販売してきたが、商談会に参加したことをきっかけに、青森県内のメーカーや道の駅と連携し、リンゴの加工品や特産品の販売を始めた。

- New!!** 「北前船」の寄港地の活性化に向け「北前船交流拡大機構」が設立（平成 29 年度）

江戸時代から明治期にかけて本州と北海道の交易を支えた「北前船」の寄港地の交流による地域活性化を目指す「北前船交流拡大機構」が設立。JR北海道や全日空など鉄道・航空会社 10 社が資金を出し、旅行商品開発も手掛け、3 年後には機構独自で収益を上げることを目指す。

- New!!** 「津軽海峡エリア料理人フォーラム」の開催（平成 29 年度）【(3)体制づくり 1】

道南と青森県の料理人が、料理に質向上に向けて研さんを積む「津軽海峡エリア料理人フォーラム」が函館市で開催。集まったシェフ 65 人が、津軽海峡エリアの食の魅力を語り、新しい食の経済圏を形作ろうと呼びかけた。

- New!!** 東北と函館のローカル鉄道 13 社による訪日外国人向け共同パスの発売
（平成 29 年度）

東北と函館市に路線を持つ鉄道事業者が訪日外国人を対象とした共通の乗り放題乗車券「東北・函館ローカル鉄道共同パス」を発売。当面は台湾のみで発売し、アジアを中心に拡大する予定。

○**New!!** JR北海道の北海道新幹線開業1周年企画により、北斗市民が青森ツアーに参加
(平成29年度)

北斗市が、JR北海道の青森県と道南地域の沿線地域限定企画を活用し、日帰りツアーを主催。1回目の12月は、定員100名に対して585名の応募が集まり、2回目(2月)、3回目(3月)も各100名が参加した。ツアーは新青森駅から自由行動で、浅虫温泉や浅虫水族館、三内丸山遺跡など青森市内のほか、弘前市まで足を延ばした。

○**New!!** 青函トンネル開業30周年記念事業の実施(平成29年度)

JR北海道は、平成30年3月13日で青函トンネル開業30周年を迎えた。同年4月で30周年を迎える瀬戸大橋線とタイアップしながら、JR四国との共同企画の旅行商品の販売等を行う。そのほか、新幹線駅において青函トンネル開業までの歩みなどを紹介するパネル展示も実施している。

○**New!!** 青い森鉄道と津軽海峡フェリーによる企画切符「海峡ゆったどきっぷ」の発売
(平成29年度) 【(1)圏域内の交流・連携 35】

津軽海峡交流圏の活性化を図るため、青い森鉄道八戸駅と函館フェリーターミナルを結ぶ割安な企画切符により、訪日外国人客の獲得も目指す。

○**New!!** 津軽海峡フェリーが、青函の乗客対象のレンタカーとセットにした割引プランを
販売(平成30年4月～) 【(1)圏域内の交流・連携 35】

津軽海峡フェリー函館・青森、函館・大間の2ルートの乗客を対象に、青函のオリックスレンタカー3店舗とセットにした割引のプラン。

○**New!!** 東日本高速道路(株)と商船各社が提携し、北海道内の高速道路の乗り放題パス
の利用者に対するフェリー運賃の特別割引を実施(平成30年4月27日～平成30年
11月5日)

東日本高速道路(株)が販売する北海道内の高速道路全線が期間限定で乗り降り自由になる「北海道観光ふりーぱす」を申し込んだ者が、八戸ー苫小牧間を除く本州と道南を結ぶ12航路(津軽海峡フェリーや青函フェリーを含む)について、フェリーを予約すると最大で50%の割引を受けられる特別割引を実施。

○**New!!** 八戸・苫小牧航路に新造船「シルバーティアラ」が就航(平成30年4月25日)

八戸・苫小牧間は航路開設から45周年。旅客定員が494人と、以前より2割程度少なくなったが、個室が約4倍の106室と増えた。積載可能車両も約2割増えて乗用車30台、トラック82台。

○**New!!** ぱしふいっくびいなす号「春の日本一周クルーズ」に北海道新幹線で函館から本州に渡るプランが設定（平成 30 年 5 月）

日本クルーズ客船が、ぱしふいっくびいなす号で神戸港や横浜港を出港して宮古、函館、秋田、富山等を巡る「春の日本一周クルーズ」に、函館港での下船後に北海道新幹線やJR五能線リゾートしらかみを利用して次の寄港地である秋田に向かうオプションツアーを設定した。

○**New!!** 青森県の校外学習や修学旅行における函館での地元PR（平成 30 年 6 月 14 日、平成 30 年 6 月 15 日）

大間町立奥戸中学校では、平成 28 年度から校外学習として函館全校遠足を実施しており、今年度は五稜郭タワーと函館駅を訪れ、観光客に対して初めて大間町の郷土芸能の津軽海峡海鳴り太鼓などを披露し、青森産ヒバの消臭剤と大間町の観光パンフレットを配布するなど、大間町や下北の魅力をPRした。

また、十和田市立南小学校及び十和田市立三本木小学校の修学旅行生は、修学旅行の行程に函館駅や函館朝市における地元グルメや観光PR冊子の配布などを組み込み、国内外の観光客に地元をPRした。

○**New!!** 青函トンネル内における携帯電話サービスのエリア整備実施へ（平成 30 年 6 月）

NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクの3社が、公益財団法人移動通信基盤整備協会を通じて、現在、一部に限定されている青函トンネル内の携帯電話サービスについて、トンネル全域（全長約 54 km）においても平成 31 年 3 月以降順次サービスを開始することを発表した。現在、国の補助金を活用して工事が進められている。

○**New!!** NTT東日本による海上自衛隊との合同輸送訓練（平成 30 年 7 月 11 日～平成 30 年 7 月 13 日）

NTT東日本の青森支店及び北海道南支店が、北海道の大規模災害等を想定し、電気通信設備の被災復旧に必要な災害対策機器等の輸送について、海上自衛隊大湊地方隊と連携強化を目的とした合同輸送訓練を実施した。

訓練内容としては、交通遮断により道内から函館方面への支援が難しいとの想定で、青森から海上自衛隊輸送船で災害対策機器等を搬送し北海道の復旧活動を支援するため、多用途支援艦による積載、海上輸送、卸下、回線開通までの一連を行うもの。

○**New!!** ハーバード大学のデビット・ハウエル教授による講演（平成 30 年 7 月 21 日）

ハーバード大学のデビット・ハウエル教授（東アジア言語文明学部長）が、青森中央学院大学で「津軽海峡から世界へ」と題して日本語による講演を行い、350人以上の一般聴講者が集まった。

○**New!!** 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館で特別展「海を渡る縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」の開催（平成30年7月21日～9月2日）

世界文化遺産登録の国内推薦候補に決まった「北海道・北東北の縄文遺跡群」からの出土資が集まり、交流しながら豊かな縄文文化を築き上げた北海道と北東北の1万年の歩みをたどることができる。

○**New!!** 海と日本プロジェクトによる津軽海峡こども調査団の開催
（平成30年7月21日・青森、平成30年7月26日・函館）
【(1)圏域内の交流・連携 23】

青森県及び北海道の小学5年生から各20名を募集し、津軽海峡がもたらす海の恵み（水産資源、環境、地域の特性や歴史など）をエリアごとに調査を行い、日々の暮らしの中では気付かない地元ならではの海の魅力を体験してもらった。また、8月7日～9日には両エリア代表による帆船「みらいへ」の航海体験と船内での発表会、交流イベントを実施した。

○**New!!** 八戸市と苫小牧市が交流連携協定を締結（平成30年7月31日）

フェリー航路で結ばれている両市が、フェリーを活用した交流人口拡大に向け、協定を締結した。今後、観光、スポーツ、物流等の分野で連携事業を展開する。

○**New!!** 高速船「ナッチャンWorld（ワールド）」が青函航路に6年ぶりに復活
（平成30年8月7日）

青函航路でかつて定期運航していた高速船「ナッチャンWorld」が、青森ねぶたの海上運行と花火大会を見学する1泊2日のツアーで、函館港から青森港まで運航した。

○**New!!** カネモリトレインフェスティバルの開催（平成30年9月15日～17日）

函館市の金森赤レンガ倉庫開業30周年記念イベントとして、鉄道イベントの「カネモリトレインフェスティバル」を開催された。鉄道事業者としてはJR北海道、JR貨物、道南いさりび鉄道、函館市企業局交通部のほか、青森県側から青い森鉄道、弘南鉄道、津軽鉄道が参加した。

■行政

<国>

○**New!!** 東北運輸局が「訪日外国人旅行者の青函地域における『立体観光』推進検討会」を設立（平成 29 年度）

訪日外国人旅行者の青函地域における立体観光推進のため、観光庁の実証事業を活用してフェリーの二次アクセス改善（フェリーターミナルからのバスの増発等）や認知度向上に関する実証事業やPR事業（海外旅行博覧会でのチラシ配布等）などを実施。検討会は、東北運輸局、青森県、青森市、フェリー会社、青森観光コンベンション協会など約10団体で構成。今後も、新幹線、飛行機、フェリー等の連携強化・アクセス向上などを目指す。

○ 青函地域活性化の課題を探る「青函地域経済活性化フォーラム」を開催（平成 30 年 5 月 30 日）

青森県と北海道の両財務局の青函地域の自治体、経済団体、金融機関の関係者等を対象としたフォーラムを開催し、青函地域活性化策について情報共有している。第4回目となるフォーラムは、「北海道新幹線を活用した地域活性化に向けて」をテーマに、今別町開発センターで開催した。

<県>

○ 青森県特別保証融資制度貸付金「未来を変える挑戦資金」(商工労働部)

／平成 26 年度～

県の推進する戦略等に基づく重点推進分野に属する事業(観光客等の交流人口の増加に伴う経済効果の県内への波及に資する事業等)を含む前向きな取組を行う県内中小企業者に対し、長期かつ低利で資金調達を可能とする特別保証融資制度を実施。

○ あおもりキャンパス L I F E 魅力再発見推進事業(総務部)／平成 28・29 年度

【(3)体制づくり 10】

高卒者の県内定着・流出対策を講じるため、道南地域を含め県内外の高校生に対し、合同進学相談会の開催や情報誌の配布を通じて、県内大学等への進学を選択肢として強力にアピールすることにより、将来、地域で活躍する人財を地域が一体となって育てる取組を推進する。

○ 世界に向けた「青森ブランド」発信事業(企画政策部)／平成 28・29 年度

【(3)体制づくり 13】

本県の「生業」と「生活」が一体となって生み出す価値の総体としての「青森ブランド」を確立するため、青森ブランド推進委員会での議論や県民等の青森ブランド創出に向けた取組を促進し、青森ブランドの再認識・再評価、創出に向けた気運の醸成を図るとともに、県内外への戦略的な情報発信を行う。

○ 航路でつながる津軽海峡交流圏周遊促進事業(企画政策部)／平成 28・29 年度

【(1)圏域内の交流・連携 32】

新幹線や航空路線を利用して本県及び道南地域に入り、津軽海峡交流圏域内をつなぐ航路を活用して圏域内を周遊する旅行商品の造成を促進するため、主要旅行エージェントに対して商品造成を委託する。

○ 奥津軽いまべつ駅二次交通運行・利用促進事業(企画政策部)／平成 28・29 年度

【(4)その他 27】

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業効果拡大を図るため、奥津軽いまべつ駅の二次交通の実証運行を支援するとともに、駅活用推進体制の強化等を行う。

○ つながる県民もっと拡大事業(企画政策部)／平成 28・29 年度

交流人口の増加と地域資源を活用した生業づくりを促すため、首都圏在住の本県出身者や青森ファンとの交流ウェブサイトを活用させるとともに、交流会の開催や、県人が持つスキルを生かした生業づくりを実践する。平成29年度末の事業終了に向けて、継続してサイトや交流会を自主運営できる体制の構築を目指す。

○ JOMON ムーブメント拡大推進事業（企画政策部）／平成 28・29 年度

【(1)圏域内の交流・連携 25】

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録の実現に向けて、縄文遺跡群の認知度向上、世界遺産登録を後押しする気運醸成のためのプロモーションを県内外で展開するとともに、交流人口の拡大など世界遺産登録の効果獲得に向けた受入態勢の充実・強化を推進する。

○ 白神山地「選ばれる世界遺産」プロジェクト事業（環境生活部）／平成 28・29 年度

【(1)圏域内の交流・連携 12】

白神山地とその周辺地域の自然・地域住民・地域外住民・産業のポテンシャルを掛け合わせるにより、体験プログラムの充実や情報発信・推進体制の強化、白神資源の活用による暮らしと産業の創造、これからの白神を担う次世代育成に取り組み、白神山地の顕著な普遍的価値の継承と、地域の自律的発展・活性化を図る。

○ 青函エリア食のプロモーション推進事業（農林水産部）／平成 28・29 年度

【(4)その他 23】

北海道新幹線開業効果を十分に発揮できるよう、青函エリアの枠組みを生かした食に係るプロモーションを展開する。また、「青森の正直」商談会を開催し、青函エリア内での食に係る取組を支援する。

○ 東アジア・東南アジア向け青函情報発信事業（観光国際戦略局）／平成 28・29 年度

【(4)その他 12】

東アジア・東南アジアからの多くの外国客が訪れている函館地域から、青森県への周遊の促進を図るため、市町村と連携し、青森県・函館を含む観光多言語ガイドブックを作成する。

○ 観光おもてなし・サービス向上事業（観光国際戦略局）／平成 28・29 年度

観光サービス事業者を対象にサービス品質のマネジメントを学ぶ講座を開催するとともに、県内モデル地域の宿泊施設において、宿泊サービス向上に向けた課題整理、改善検討を行い、観光産業のサービス水準の向上を図る。

○ 農山漁村でとことん「学び・交流・体験」事業（農山漁村体験留学支援事業「津軽海峡交流圏編」）（教育庁）／平成 28・29 年度【(3)体制づくり 10】

北海道新幹線を活用し、森町・函館市・北斗市等の文化にふれるとともに、農山漁村に宿泊体験留学を行うことで、津軽海峡交流圏の自然・文化・歴史への理解を深める。（小学校4～6年生20名程度、2泊3日）

○ 東青・道南地域連携型観光推進事業（東青地域県民局）／平成 28・29 年度

【(1)圏域内の交流・連携 8】

北海道新幹線開業効果を継続的に獲得していくため、北海道新幹線沿線を1つのエキシビジョン会場に見立て、当該地域の各種団体が連携して博覧会形式で開催するイベントを支援するほか、イベントでのパンフレット配布など各種PRを行う。

○ 東青地域果樹の楽園づくり推進事業（東青地域県民局）／平成 28・29 年度

陸海空の交通の要衝である東青地域で生産されている多様な果樹を地域資源として活用し、東青地域の果樹のブランド化を図るため、果樹観光取組者等のネットワークを強化するとともに、果樹観光マップの作成、新しい観光メニューを取り入れたツアー等の効果検証を実施し、受入体制のレベルアップを図る。

○ 中南地域着地型観光魅力発信事業（中南地域県民局）／平成 28・29 年度

中南地域の豊かな自然の魅力を活かしたツーリズムの提案を実施する他、「街歩き」を中南地域全体の観光コンテンツとして確立するための取組を実施する。

○ 三八地域がっちり稼ぐ広域観光事業（三八地域県民局）／平成 28・29 年度

三八地域周辺（下北・上北等）と三八地域のコンテンツを巡る、テーマ性のあるモデルルートの検証、及び三八地域を訪れる観光客の滞在時間増加策についての検討会の開催。

○ 津軽半島北部エリア誘客促進事業（西北地域県民局）／平成 28・29 年度

奥津軽いまべつ駅に隣接する津軽半島北部エリア（五所川原市、中泊町）を中心として、誘客に向けた露出強化や旅行商品造成を促す取組を実施する。

○ 上北アクティビティ・ブラッシュアップ事業（上北地域県民局）／平成 28・29 年度

【(1)圏域内の交流・連携 31】

十和田湖、小川原湖で楽しめるカヌー・カヤックや、近年ブームのサイクリングやランニングなどのアクティビティをメインに取り入れた新たな旅商品を検討し、その成果や今後の課題・目指す方向などを地域の取組関係者と共有する。

○ 台湾を主軸とした下北インバウンド促進事業（下北地域県民局）／平成 28・29 年度

函館経由で来日する台湾人観光客等を津軽海峡フェリー「大函丸」で下北へ誘客するなど、観光による地域振興を図るため、台湾国内での下北地域の知名度向上に向けた情報発信を行うとともに、外国人観光客に対応可能なガイド養成など誘客受入体制の環境整備を行う。

○ λ（ラムダ）プロジェクト道南連携強化事業（企画政策部）／平成 29・30 年度

【(1)圏域内の交流・連携 20】

本県と道南地域との連携を深め、津軽海峡を挟んだ企業や団体間の連携・交流の動きが活発化する場づくりを行うとともに、津軽海峡交流圏の拡大や津軽海峡経済圏形成に対する認知度定着に向けた情報発信を行う。

○ 青い森鉄道の新たなユーザー獲得事業（企画政策部）／平成 29・30 年度

【(1)圏域内の交流・連携 5】

県内外の旅行会社に旅行商品として取り扱ってもらうことを目的に、青い森鉄道及び沿線地域の魅力を活用したコンテンツ開発に向けた検証を実施するほか、沿線の魅力を広く情報発信する情報番組を制作する。

○ 青森ならではのグリーン・ツーリズム確立事業（農林水産部）／平成 29・30 年度

【(4)その他 23】

国内外のグリーン・ツーリズム宿泊客の拡大に向け、受入団体や地元旅行業者と連携し、「農山漁村の暮らし」を取り入れた新たなグリーン・ツーリズムを展開する。

○ 選ばれるあおもりサイクリング推進事業（観光国際戦略局）／平成 29・30 年度

【(4)その他 23】

これまでの取組で蓄積した成果や、国内最大手サイクル雑誌によるあおもりサイクリングムック本発行（国内 2 例目）といった市場の評価を活用して着実に誘客するため、本県・津軽海峡圏サイクリングの情報発信や宿泊施設発着サイクリングプログラムの構築を行う。

○ 青函周遊観光定着化推進事業（観光国際戦略局）／平成 29 年度・30 年度

【(4)その他 23】

青森県と北海道道南地域を巡る周遊観光ルートの魅力を広く PR し、認知度を高め、国内観光での定番ルートとして定着化を図る。併せて、J R 東日本と連携した観光キャンペーンを実施し、青函 DC で培った観光コンテンツをあらためて発信し、今後の定着化を図る。

○ タイ誘客対策強化事業（観光国際戦略局）／平成 29・30 年度 【(4)その他 23】

東南アジアの中では本県への宿泊者数が急速に伸びているタイにターゲットを絞り、青森・ソウル線を活用した団体旅行の強化（青森＋北海道新規旅行商品の造成支援等）を図るとともに、タイにおける F I T 化の進展を受け個人旅行向けの情報発信を強化する。

○ 東青地域観光資源 P R 事業（東青地域県民局）／平成 29・30 年度

個人旅行者を対象に東青地域への誘客を図るため、風景や食等の観光資源をつなぐモデルルートを構築するとともに、ファムツアー及び旅行雑誌への広告掲載による情報発信等を行う。

○ 東青地域冬季観光育成事業（東青地域県民局）／平成 29・30 年度【(4)その他 17】

首都圏在住者など雪との触れ合いが少ないエリアの住民をターゲットとして、管内市町村観光担当者等を協議しながら、冬季に実施する体験メニューの造成、情報発信を行う。

○ 三八地域一体型広域観光情報発信事業（三八地域県民局）／平成 29・30 年度

三八地域一体となった広域観光の振興に向けた意識形成・機運醸成を図るとともに、三八地域を一体とした国内外への情報発信を推進する。

○ 青森県・函館デスティネーションキャンペーンの効果を持続させるため、「青森県・函館観光キャンペーン」を実施（青森県・函館観光キャンペーン推進委員会）
／平成 29 年度

青森県及び北海道道南地域への更なる誘客促進のため、観光キャンペーンを実施し、青函周遊観光の定着を目指す。

○ **New!!** 未来へとつなぐ「青森ブランド」ムーブメント醸成事業（企画政策部）
／平成 30 年度【(3)体制づくり 13】

「青森ブランド」の更なる推進と県民の行動意識の醸成を図るため、青森県の価値の創出に向けた県民による企画提案を検討・発表するワークショップを開催するとともに、ウェブサイトを活用した情報発信等を行う。

○ **New!!** 奥津軽いまべつ駅利用促進等事業（企画政策部）
／平成 30 年度【(4)その他 27】

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業効果拡大を図るため、駅周辺地域の観光資源PR及び旅行商品造成支援を行うとともに、地元市町が行う奥津軽いまべつ駅の二次交通の運行に対する支援に要する経費に対して補助する。

○ **New!!** 蟹田・脇野沢航路利用促進による津軽海峡交流圏周遊促進事業（企画政策部）
／平成 30 年度【(1)圏域内の交流・連携 32】

蟹田・脇野沢航路の利用促進による津軽海峡交流圏の周遊促進を図るため、当該航路のPRや津軽・下北半島に関する観光資源の情報発信を行うとともに、大間・函館航路と組み合わせた旅行商品を造成する。

○ **New!!** JOMON世界への挑戦推進事業（企画政策部）／平成 30 年度
【(1)圏域内の交流・連携 25】

世界遺産登録の早期実現に向けて、さまざまな媒体・機会を活用したプロモーションを展開し、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の露出拡大と認知度向上、世界遺産登録を後押しする国内外の気運を醸成する。

○**New!!** 世界自然遺産「ビジット白神山地」プロジェクト事業（企画政策部）
／平成30年度【(4)その他 6】

白神山地の保全や周辺地域の持続的発展を図るため、著名な自然愛好家を招請し、地域の自律的推進体制の構築に向けた意見交換会やフォーラムを開催するとともに、海外メディアの招請による情報発信、外国語併記標識の整備等を行う。

○**New!!** 下北地域観光滞在拡大事業（観光国際戦略局）／平成30年度【(4)その他 23】

下北地域の観光滞在時間と宿泊者数の増加を図るため、SNSを通じた情報発信などによる下北地域の認知度向上や、下北地域の食や文化等を活用した食メニューの開発などによる新たな魅力づくりを行う。

○**New!!** 国内誘客強化事業（観光国際戦略局）／平成30年度【(4)その他 23】

個人旅行者が増加傾向にある首都圏、団体旅行者の割合が高い中京以西等、各エリアのニーズに即した旅行エージェントへのセールス等を行い、誘客促進を図る。

○**New!!** 選ばれる青森誘客促進事業（観光国際戦略局）／平成30年度
【(1)圏域内の交流・連携 31】

県内観光事業者に対し、口コミの重要性やコメント投稿数増加、高評価獲得に向けた勉強会を実施するとともに、観光素材を紹介するための映像を制作し、本県への誘客促進を図る。

○**New!!** 青函エリア情報発信強化事業（観光国際戦略局）／平成30年度
【(2)圏域外と内の交流・連携 8】

北海道新幹線の開業や青森県・函館DCの実施等により構築された本県と道南の観光関係者の協力体制を生かして、「青森VS函館」のコンセプトで多言語観光ガイドブックを共同制作し、国内外に配布することにより、外国人観光客の誘致に取り組む。

○**New!!** 情報発信強化による青森ファン拡大事業（観光国際戦略局）／平成30年度
【(1)圏域内の交流・連携 31】

英語版及び香港版フェイスブックの開設や観光地のリアルタイムな情報発信等SNSでの情報発信強化により、本県の観光情報を海外向けに強力に発信する。

○**New!!** 「魅せる中南津軽」発信力強化事業（中南地域県民局）／平成30年度
【(2)圏域外と内の交流・連携 7】

中南地域の隅々まで誘客を図るため、管内の市町村や事業者の情報発信力の強化を図るとともに、SNS等の活用による海外個人旅行者向けの情報発信及びインバウンドに対応したまちあるきガイドの育成等に取り組む。

○**New!!** 西北の食ツーリズム誘客促進事業（西北地域県民局）／平成 30 年度
【(4)その他 23】

西北地域ならではの食を活用した誘客を促進するため、食ツーリズム構築に向けた研修会の開催、食ツーリズムの可能性検討及びモデルコースを作成するとともに、地元における食ツーリズムの認知度向上を目指しPRに取り組む。

○**New!!** 世界に選ばれる十和田湖奥入瀬ツーリズム推進事業（上北地域県民局）
／平成 30 年度【(4)その他 23】

十和田湖奥入瀬地域への台湾からの誘客促進を図るため、台湾人旅行客の嗜好等を調査するとともに、地域の観光資源を生かした新たな観光コンテンツを開発する。

○**New!!** 下北観光滞在推進事業（下地域県民局）／平成 30 年度【(4)その他 23】

下北地域の観光滞在者数の増加に向け、観光国際戦略局及び各市町村との連携・役割分担のもと、国内外からの誘客を促進するための滞在型観光メニューの造成や情報発信等に取り組む。

○**New!!** 青函DC・アフターDCの効果の持続・拡大のため、「青函周遊観光部局長会議」
を開催（観光国際戦略局）／平成 30 年 7 月 13 日

青森県と道南地域の周遊観光コースの定着化を目指し、青森県と北海道の関係機関における連携事業案等についての意見交換、調整を行った。

<市町村>

○ 函館グルメサーカスへの参加（八戸市）／平成 24 年度～

八戸の食・観光PRブース、郷土芸能の披露、八戸三社大祭ミニ山車展示などを行った。

○ 七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業（十和田市、七戸町）／平成 24 年度～ 【(4)その他 27】

七戸十和田駅から奥入瀬溪流・十和田湖の入り口である焼山までシャトルバスを運行した。（事業主体は七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行協議会）

○ 北海道新幹線開業対策にぎわう駅ナカビジネス創造事業（中泊町）／平成 24 年度～

津軽中里駅の駅ナカにぎわい空間を活用し、コミュニティカフェ、観光案内、特産物直売、駅ナカミュージアムを地元の元気な「かつちゃ」たちが中心となり運営。観光客や地域の住民が集うことを目的に四季のイベントや加工品を開発して、駅ナカをにぎやかした。

○ 青函圏観光都市会議（青森市、弘前市、八戸市、函館市）／平成 25 年度～ 【(4)その他 36】

県内三市（青森、弘前、八戸）に函館市を加え4市で組織する「青函圏観光都市会議」において、これまで4市のマラソン大会を活用した「青函圏マラソンラリー」、「青函圏周遊博」を開催してきた。平成 29 年度は「青函圏周遊ぐつとくる旅ガイドブック」の発行や「青函周遊PR動画」の公開を行い、平成 30 年度は、日本語のほか英語、韓国語、タイ語、中国語（繁体字、簡体字）に対応するなど、国内外に圏域の魅力を発信している。

○ 五所川原まるごとPRキャラバン事業（五所川原市）／平成 25 年度～

五所川原市の知名度向上及び誘客促進を図るため、県外へのキャラバン事業を展開しており、函館市で開催する函館グルメサーカスに参画し、観光物産PRを行った。

○ 函館グルメサーカスへの参加（三沢市）／平成 25 年度～

ゆるキャラやキャンペーンガール等による観光PR及びご当地グルメ（パイカ料理、チーズロール）等を出展した。

○ **ハクチョウのまち再生（平内町）**／平成 25 年度～ 【(4)その他 32】

渡来のハクチョウが特別天然記念物に指定されているところは、全国で当町の「小湊のハクチョウおよびその渡来地」が唯一である。この渡来地の美しい景観と自然環境を後世に守り伝えるため、住民意識の醸成を図り、活動の輪を広げるため、ハクチョウのまち出前講座、ハクチョウ検定、ハクチョウのフォトコンテストなどを行った。

○ **北海道新幹線新函館開業対策事業（弘前市）**／平成 26 年度～

弘前駅自由通路等を活用した旅行者の歓迎事業や弘前駅自体の賑わいを創出する事業に対して補助を行い、はこだてクリスマスファンタジーひろさきナイトでの弘前市の P R 活動や、函館市と連携した首都圏等（大宮、札幌、函館）P R などを行った。

○ **函館グルメサーカスへの参加（七戸町）**／平成 27 年度～

北海道新幹線開業に向けて、関東圏のみでなく道南との交流や当町 P R を目的に函館市で開催される函館グルメサーカスに参加。町のみどころや特産品の紹介を中心に行った。

○ **奥津軽いまべつ駅開業 P R キャラバン事業（今別町）**／平成 27 年度～

函館市をはじめ、首都圏や仙台市で P R キャラバンを実施し、イベントでの駅開業 P R や郷土芸能の「荒馬」を披露した。

○ **北海道江差町いにしえ街道交流事業（今別町）**／平成 28 年度～

北海道江差町の「いにしえ街道」において、今別町の伝統芸能「荒馬」の披露やパンフレットを配布する。

○ **New!! 「津鉄ア・モーレ」事業（五所川原市・中泊町）**／平成 29 年度～

津軽鉄道の活性化のため五所川原市と中泊町の若手職員により結成された「津鉄ア・モーレ」が、津軽鉄道活性化協議会の事業として、レンタサイクルの利用者に対して SNS 等への投稿を条件に利用料金の一部を助成するキャンペーンである「津軽鉄道×サイクリング魅力発信事業」などの事業を実施。

○ **New!! いまべつ総合体育館完成（今別町）**／平成 30 年 7 月 7 日

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅近くに、宿泊施設付き体育施設「いまべつ総合体育館」が完成。体育館はフェンシングやバドミントン、フットサルなど多目的利用が可能。総工費は約 7 億 4 千万円で国の交付金も活用している。駐車場は約 150 台あり、イベントの開催、災害時の避難場所にも活用できる。

